

## 違和感ありますか

「級長の話。級長さん、お願いします。」

どの学級においても、朝や帰りの会の司会者がこのように言っていますか。今朝もある学級にお邪魔した時、このように司会者が進行していました。違和感のある人はほとんどいないことでしょう。聞きなれてしまうとそれが当たり前になってしまえますからね。

しかし、この発言にはおかしな箇所があります。どこかわかりますか。それは「級長さん」の部分です。「どこがおかしいの?」という声が聞こえてきそうですね。学校という限られた中で使ってる分には何も支障ありませんが、社会に出た時には通用しないことがありますので、次に説明することを覚えておいてください。

「級長」というのは役職名です。役職名に敬称はつけません。役職名にすでに敬意が込められていますので、二重に敬意を払うことになってしまいます。何だかぶっきらぼうな言い方でしっくりこないかもしれませんね。先の場合、「級長、お願いします」という言い方で十分です。慣れてしまえばそれが普通になるでしょう。どうしても「さん」という敬称を使いたければ、「級長（名前）さん、お願いします」にすればよいのです。

学校生活において、役職名に「さん」をつけることがなぜ普通になつてしまったのか、突き止めてみると面白いと思います。私は次のように勝手に想像しています。

幼い頃にさかのぼります。私もそうだったのですが、言葉を覚え始めた幼い子に話しかける時に、大人はよく擬人化して言葉を発します。「ワンちゃんがいるよ」「残すとニンジンさんが悲しむよ」というように、「ちゃん」「さん」を付けなくてもいい物にもつける傾向にあります。全てはここから始まっていると私は考えています。

やがて、園や小学校に入ると、擬人化こそ少なくなるものの、敬称をつけることが普通になる生活になります。保育士や教員は、相手を大切にすることを意識を育てるために、敬称を役職につける傾向にあるような気がします。「当番さん」「国語係さん」というようにね。しかし、これはいけないことではありません。その立場を大切にしようという姿勢の表われですからね。皆さんもそういう言葉が飛び交う中で育ってきたはずですよ。

中学校では、そろそろそこから卒業できるように準備しましょう。「役職には敬称をつけないのか」と理解することがその準備にあたります。そして、知った以上は、会の司会や放送のアナウンスなどをするとき、役職に敬称を付けないことに挑戦してくださいね。それができると、多少大人っぽい話し方になると思いますよ。

もう一つ、次の言い方もおかしいのですが、どこがおかしいかわかりますか。よく放送で耳にしますよ。

「○○委員の人は、二階多目的室に集まってください。」